新湊 伝統文化 獅子舞 さんぽ

密集する伝統文化、
凝縮する高揚感。

湊町を彩る
祈りと喜びの
舞、音、かたち

企画・取材・発行
射水商工会議所 魅力発信プロジェクト
（事務局）射水商工会議所
〒934-0011 射水市本町 2－10－30 クロスベイ新湊 2階
TEL：0766-84-5110

発行日
2023 年 3 月31 日

引用・参考文献
「とやまの獅子舞」富山県教育委員会
「郷土芸能 新湊の獅子舞」荒木菊男
「亘理」新湊市立庄西公民館郷土誌編集委員会
「射水のまつり」射水市新湊博物館 編
「新湊市史」新湊市史編さん委員会
「しんみなとの歴史」新湊市
「祭礼・伝統行事継承の在り方～未来に残したい「祭」とは～」五十嵐友輔
「地域につながる―富山県射水市の調査記録―」富山大学人文学部文化人類学研究室
「いみずの神社・寺院」射水地区広域事務組合
「角川日本地名大辞典 16 富山県」竹内理三 編

協力
取材にご協力いただいたみなさん、
射水市、射水市教育委員会、
射水市新湊博物館、射水市観光協会、
越中祭青年会、久宗 獅子舞工房

制作
株式会社 ワールドリー・デザイン

印刷・製本
有限会社 明野印刷

倉屋敷町獅子舞の宮参りの様子／神明社（東町）

地域まるごと、神がかる。

神々とつながる獅子舞が、湊町を高揚させる。

富山県射水市・新湊地区には、1,300 年以上前からの湊町としての歴史・文化があります。全国随一の「獅子舞県」富山。県内最古の獅子舞の記録は、ここ新湊にあります。家々や寺社が密集しており、5 月の祭礼の日には、至るところで獅子舞に出会うことができます。

古来より、漁や交易を通じて様々なものや文化を受け入れ、驚くほどの吸収力で自分たちのものにしてきた新湊の人々。小さい頃から体に刻まれた音や所作をベースに、各時代の担い手たちが夢中になって獅子舞に取り組み、その技を極め、世界観を醸成し、まちの人々を熱狂・陶酔させてきました。いつの時代も、個々のセンスや身体能力などから新たな解釈や欲望を生み出し、アレンジや発明が加えられ、新湊の獅子舞は今も進化し続けています。

獅子舞には、古くからこの地域に暮らしてきた人々の祈りや願い、感謝や喜びの形が凝縮されています。長い年月をかけて脈々と受け継がれてきた心意気や技術は、言葉以上に訴える力があります。新湊の獅子舞は、とにかく見て、感じてみるのが一番です。高揚感に身を委ね、まちの英雄たちの演舞・演奏を心ゆくまで味わいましょう。

新湊周辺にある獅子舞の特徴

①密集度

内川周辺の新湊・放生津・六渡寺エリアに、約 30 の獅子舞が受け継がれています。特に 5 月 15 日と 5 月第二土曜に集中しており、この 2 日間は町を歩くだけでたくさんの獅子舞に出会えます。お囃子が混じると演目がわからなくなるため、隣接する町の獅子方・囃し方の「獅子舞待ち」も発生するほどです。

②ストーリー性とドラマ性

六渡寺の夜は「夜叟振（よそぶり）舞」、新湊の花打ちでは「獅子殺し」という、数十分の物語的演目が演じられます。暗闇で獅子を探したり、獅子に酒を飲ませて酔わせキリコたちを救出したり、最後は大団円で乱舞と、それぞれの場面がドラマチックに展開します。途中、様々なキャラクターや演出で見せ場も豊富なため、松明が用意され始めたらぜひ、最初から最後まで通しで観て、楽しみましょう。

③火を使う

六渡寺の獅子舞にある「夜叟振（よそぶり）舞」からヒントを得、40 年ほど前から、新湊地区全ての獅子舞で松明を使うようになりました。火矢を放ったり両端に火のついた長い棒を回したり、町によって様々な演出があります。

④心意気と高揚感

古くからこの湊町に暮らしてきた人々の祈りや願い、感謝や喜びの形が、舞やお囃子に凝縮されています。長い年月をかけ脈々と受け継がれてきた技術や心意気は、言葉以上に訴える力があります。なんとも言えない高揚感に身を委ね、獅子舞を楽しみましょう。

⑤日々、見応えアップ

各町内・団体では、毎年、より見応えのある舞を求めて、様々な動きや道具の工夫や試行錯誤を繰り返しています。町や団体を越えて真似したり取り入れあったりして、獅子方の道具や動き、お囃子のテンポや表現などがどんどん進化。今も変わり続けています。

伝統文化 新湊獅子舞 さんぽMAP

内川周辺の獅子舞と⛩宮参り神社

※内容は 2022 年度に確認できたものです。開催日や宮参り神社、内容などが変更される場合がありますのでご注意ください。

新湊地区の獅子舞

射水平野から神通川左岸の地域に伝承されている新湊の獅子舞は、射水獅子に分類される、胴幕を獅子方が素手で支える百足獅子です。もともと「浜獅子」と呼ばれ、荒々しさと物語性をあわせ持つ演目を有しており、非常にエンターテイメント性が高く見応えのある獅子舞として、全国的にも評価されています。数十年前からは火を使う舞が全域に広がり、勇壮さと見応えがさらに増しています。

六渡寺・新湊・放生津エリアでは、江戸時代にすでに舞われていた獅子舞。富山県内の獅子舞の最古の記録とされる「新規町獅子道具箱書」には「文政十一歳子八月改」（1828）の紀年銘があります。内川周辺に現存する獅子舞は約 30。保存会や若連中等で管理・運営されており、その多くが 5 月 15 日を中心に開催される春季祭礼で舞われます。

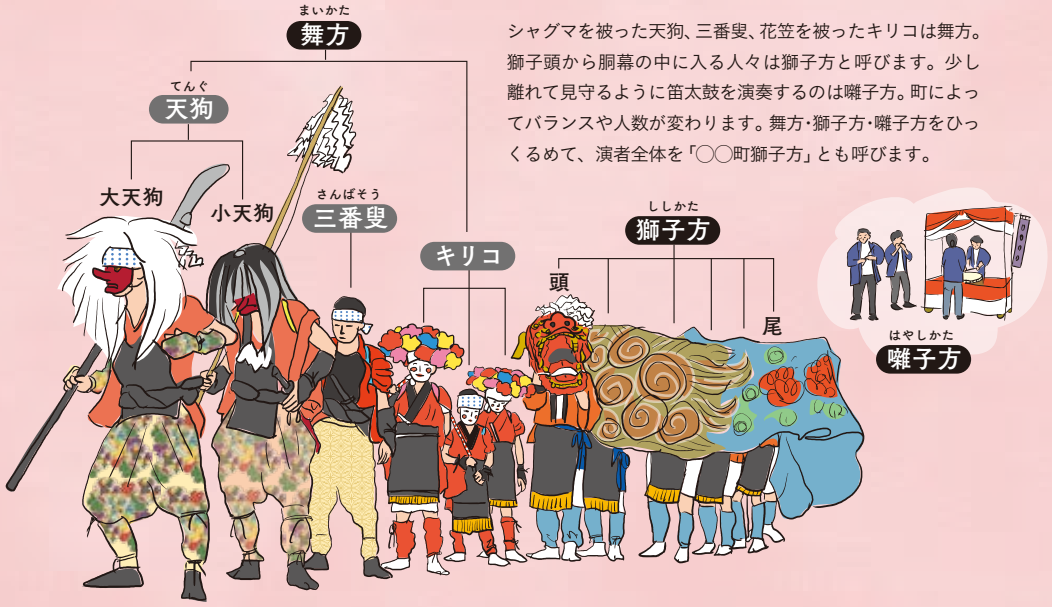
獅子舞の日にはあちこちでお囃子の音や獅子舞に出会えるほか、祭りの 1 ヶ月ほど前から各町内での練習風景にも遭遇できます。

Historia 歴史解説

新規町 ~新湊・放生津地区 元祖の獅子舞~

秋葉社（八幡町二丁目）縁起は、かつて帆船の往来が盛んな頃、西国の獅子舞が船乗りによって移入され、放生津八幡宮に奉納されたのが創始と伝えています。

獅子舞の構成（宮参り時）



シャグマを被った天狗、三番叟、花笠を被ったキリコは舞方。獅子頭から胴幕の中に入る人々は獅子方と呼びます。少し離れて見守るように笛太鼓を演奏するのは囃子方。町によってバランスや人数が変わります。舞方・獅子方・囃子方をひっくるめて、演者全体を「〇〇町獅子方」とも呼びます。

富山県内の獅子舞

県内の獅子舞の概況

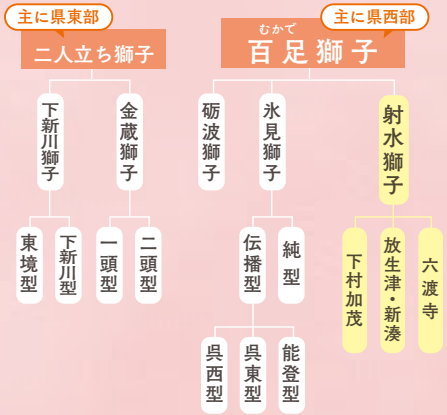
全国的にも獅子舞の多い富山県。各地に 1,000 を越える獅子舞が伝承されています。活動数は次第に減少し、休止・廃止となる地区もあり、現在演じられているのは約 800 団体といわれます。春は豊作祈願、秋は五穀豊穣への感謝を伝えるため、各地区に受け継がれる獅子舞が演じられます。このような獅子舞は、江戸末期の頃から広まり、明治に入ると庶民の芸能として隅々の村々まで浸透しました。獅子舞は、富山に住む人々の生活に根ざした伝統文化として、人々の絆とともに受け継がれてきました。

県内の獅子舞の分類

富山県内の獅子舞は大きく、「百足獅子」「二人立ち獅子」「行道獅子」の 3 つに分けられます。祭礼で舞を披露する「百足獅子」と「二人立ち獅子」に対し、「行道獅子」は、舞わずに祭礼の露払い役を務めます。大まかにいうと、県西部は「百足獅子」が多く、県東部は「二人立ち獅子」が多いのが特徴です。

県内の百足獅子は、「射水獅子」「氷見獅子」「砺波獅子」の 3 つに分類されます。胴幕の中へ大人数が入ることからこの名前が付いており、隣接する加賀・能登からも相互に大きな影響を与えあってきました。伝承については諸説あります。

県内の獅子舞系統図



氷見獅子

氷見市とその周辺に伝わる百足獅子。胴幕の中に 5〜6 名の獅子方が入り手を広げて支えるのは射水獅子と同じです。獅子の相手は烏帽子を被った狩衣姿の天狗で、獅子舞棒を持って激しく舞うのが特徴。テンポの良い囃子とすばやい演舞で展開し、1 日の最後は、迫力ある「獅子殺し」で終演します。

砺波獅子

砺波平野一帯に伝わる百足獅子。竹製の輪が通され、丸く大きく膨らまされた胴幕で、ゆさゆさとダイナミックに舞うのが特徴。獅子方は 5〜8 名で、頭と尾を除く胴幕内では 1 人 1 本ずつ竹の輪を両手で支えて舞います。獅子あやしは「シシドリ」と呼ばれ、二人一組の子どもが様々な採り物を手にリズミカルに演じます。「獅子殺し」の所作はありません。

祭礼の先導役

行道獅子

前述の新規町の獅子も、この箱獅子とともに行道獅子の役を勤めていたようです。

Historia 歴史解説

放生津八幡宮の箱獅子

10月 1 日、放生津八幡宮秋季例大祭の神輿渡御・曳山供奉（お神輿に曳山が付いて回る＝曳山祭り）に先立ち、進路を清める箱獅子が登場します。これは、祭礼の先導役となる行道獅子です。

獅子舞に登場する キャラクターと道具

天狗（てんぐ）

獅子に対する最重要役

獅子舞の見どころをほしいままに操る花形役。氷見獅子系は漆塗りの烏帽子を被り、射水獅子系はふさふさした長い白黒毛のシャグマ（毛冠）を被ります。襷をかけた狩衣や着物に紋章を描いた胸当てを付け、タッツケ袴を穿いて裾を紐でくくります。卓越した身体能力と熟練の技術が必要となるため、祭りの日は英雄的存在に。引退後も伝説の名人として語り継がれます。30･40 代での引退も多いですが、60 代半ばまで活躍する文字通り超人的な天狗役もいます。

独特の面が特徴
奈呉町

烏帽子を被った天狗
庄東町

豪華な金刺繍の衣装
四日曽根

採り物

松明（たいまつ）

いつの間にか、夜の演目や花打ちで欠かせない存在に

御幣に燃え移って
ボヤ騒ぎになることも…。

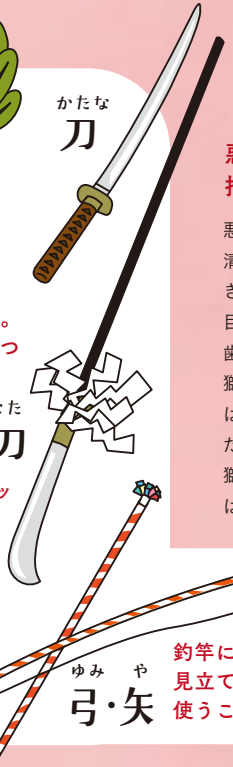
棒（ぼう）

短剣（たんけん）

葉団扇（はうちわ）

力の強い天狗が持つとされる団扇。天狗や三番叟が持つ

剣（けん）



刀（かたな）

薙刀（なぎなた）

ダイナミックに振りかざす

弓・矢（ゆみや）

釣竿に見立てて使うことも

御幣（ごへい）

場を清める

獅子（しし）

悪魔祓いの霊力を持つ聖なる獣

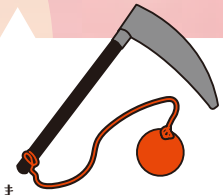
悪魔や邪気を祓い、場を清める霊獣。正面の大きな鼻、丸く大きな目玉と写実的な歯並びの獅子頭は鮮やかな黒・赤の漆や金・銀色で彩られています。ほとんどは丸みを帯びた獅子頭ですが、歴史の古いものほど箱型になります。後ろには 5〜6 人の獅子方が胴幕を素手で支え、百足獅子を膨らませます。特に獅子頭を持つ役は重要で、天狗役との息の合った演舞が見せ場となります。

三番叟（さんばそう／さんばさ）

烏帽子を被った高貴な清め役

神楽、能楽、演劇において、五穀豊穣を寿ぎ、場を清める舞として古くから舞われている「三番叟」。演目がそのまま役名となっています。烏帽子に狩衣もしくは水干姿という豪華な衣装で舞う、高貴な獅子あやし。新湊では、小学校高学年から中・高校生くらいの少年が舞うことが多いようです。

採り物

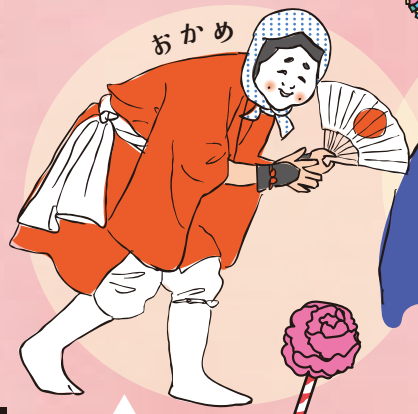


鎖鎌（くさりがま）

赤い球にじゃれる獅子を鎌で牽制

扇子（せんす）

日の丸の扇子。オドケやキリコも幅広く使う



オドケ

おどけた仕草で場を盛り上げる舞の名人

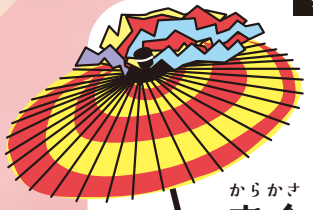
天狗のかわりに獅子の相手をしたり、みんなが舞っている時に全然違う動作や笑いを誘う行動をして場をさらに盛り上げる道化役。舞い方に余裕がある時や、花打ちなどの際に出現する。天狗経験者や舞の名手が務めることが多いようです。

キリコ

愛くるしく舞う子どもの獅子あやし

花笠に鮮やかな着物を着て、白塗りに紅い頬の化粧をした獅子あやし。未就学児から小学生が、2 人一組で演じます。こきりこ節で使う竹がルーツとされる 2 本の「キリコ」を持って踊ることからこの名に。

採り物



唐傘（からかさ）

閉じたり開いたり転がしたり…様々な形態で使用する

お獅子の目を回すために使うこともあるよ！

キリコ

カラフルな 2 本の棒。こきりこ節で使う 2 本の竹がルーツとされる

スズガラ

螺旋状の棒に鈴がついている。装飾は町により異なる

獅子舞の代表的な演目

お宮参りから始まる

ミヤマイリ

朝一番に行う町の氏神様へのお参り。隊列を組み参道を厳かに進みます。神楽で拍手、薙刀で舞い、最後は獅子方全員で清祓いを受け、町内各家に出向きます。

軽やかな天狗の舞

ハウチワ

天狗が葉団扇をたくみに使い、葉に隠れながらもう一方の短剣で獅子との攻防を繰り広げます。天狗や三番叟が舞います。

可愛いキリコの舞

キリコ

キリコが 2 人で舞います。両手に持った棒を叩き合わせたり振ったりして、左右のキリコが獅子と戯れる舞です。

演目の皮切り！

なぎなた

演目の開始に舞われることが多く、薙刀を大振り、小振りしながら獅子に対抗する舞です。大天狗が舞うことが多いようです。

可愛いキリコの舞

スズガラ

スズガラと扇子の 2 つを持ち、片足ケンケンをしながら廻ります。獅子とのやりとりがコミカルで微笑ましい舞です。

ザイゴ＝在郷（田舎）

ザイゴ

「ザイゴのおっかちゃんに叱られた〜」と若い衆の歌に合わせて舞います。長い棒（ザイゴ棒）を使って田畑を耕す所作が見えます。

じゃらしつつ、刈る！

カマ

鎖鎌を使います。赤い球を追う獅子を鎌で牽制。締めになることが多い舞で、稲刈りの所作も取り入れられているそう。

お獅子、入りま〜す！

ハッタハッタ

「入った入った」がなまって「ハッタハッタ」に。祝花の家に入る時や、公民館に帰ってきた時など、「どこかに入る」際に舞います。

港町ならでは！
大漁祈願の舞

おべっさん

「恵比寿さん」がなまって「おべっさん」に。漁師町である新湊では、大漁祈願のため漁師の家で舞われたり、商売繁盛に繋がることから店の前で舞われることもあります。天狗が釣竿に見立てた竹を使って、釣りをする所作が特徴。

松明をダイナミックに使う

夜叟振舞（よそぶりまい）／大廻り（おおまわ）

暗闇や竹藪に隠れ様子を伺う獅子を、大天狗・小天狗たちが、チームワークでおびき寄せる舞。地を這うような低音の太鼓と抑えの効いた笛の音が人を惹きつけ、いやが上にも期待感を高めます。松明をダイナミックに使い、這うように獅子を探す迫真の演舞は、夜ならではの見どころのひとつ。

死と再生の壮大なドラマ。
最後は大団円！

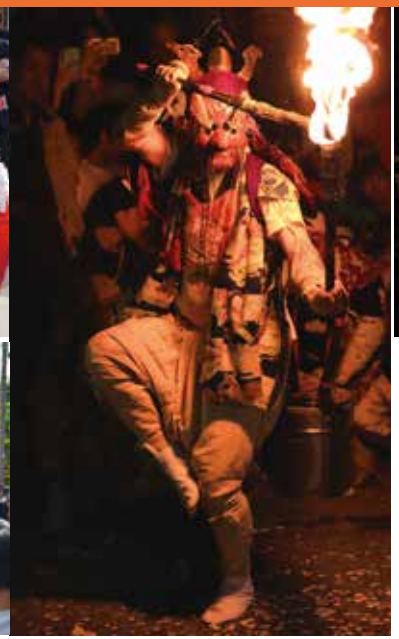
獅子殺し（ししごろ）し

キリコ・天狗との和やかな戯れから、徐々に激しい攻防に。最後は酒を飲ませ寝かせた獅子を刀や矢でしとめて終了します。聖獣である獅子を殺すのは休息や一区切りの意味が強く、新湊では「花打ち」の度に獅子殺しが行われます。最後はオールスターキャストで乱舞。町ごとに様々な演出で見応えのある演目です。六渡寺では酒を飲ませるなど一連の流れはありますが、獅子をしとめる（＝殺す）場面はありません。

獅子殺しの流れ（一例）

1. キリコが獅子と戯れる
2. 獅子がまとわりつくキリコを脅して気絶させる
3. 獅子がキリコをお腹の中に隠してしまう
4. 小天狗が酒で獅子を酔わせて助けようとする
5. 酒の味を知らない獅子は飲もうとしない
6. 大天狗が登場し無理やり獅子に酒を飲ませる
7. 酒の味を覚えた獅子はグビグビと樽酒を飲む
8. 獅子は飲み過ぎで酔って寝てしまう
9. 触れたり松明で照らしたりして寝たか確認する
10. 寝てしまった獅子を松明で照らして確認する
11. 獅子が寝ている間にキリコを助け出す
12. 小天狗がまたがり、大天狗が剣でとどめをさす
13. 息絶えたと思われた獅子が起き上がる
14. 全員で乱舞する　終了

※イラストの場面



技術も評判も県内随一！

六渡寺の獅子舞

Rokudoji Lion Dance

六渡寺（ろくどうじ）　5/14&10/6　朝 日枝神社　昼 天満宮

庄川と小矢部川に挟まれ、海に面した六渡寺地区では、5月14日と10月6日の年2回、六渡寺日枝神社の祭礼で獅子舞が行われています。県内でも最高峰とも言われる六渡寺の獅子舞は氷見獅子の系統。安政3年（1856）3月に加賀藩の前田のお殿様が中納言昇進のお祝いにと赤飯・昆布・スルメを六渡寺の住民に配布したお礼として獅子舞が舞われたとの記録もあります。明治までは、六渡寺の東西それぞれに獅子舞がありましたが、庄川の改修工事や伏木港の拡張などで町の構成が変わり、昭和 8 年頃には、東の射水獅子と西の氷見獅子が融合し、今の形へと引き継がれています。歴史と技術に裏打ちされた唯一無二の獅子舞は、六渡寺の地域の人々の誇り。毎年多くの見物客がやってくるだけでなく、全国から注目と賞賛を集め続けています。

六渡寺の獅子舞の特徴&偉業

- 松明を使った舞（夜叟振舞）を発明
- 他の追随を許さぬ速いテンポ・動き
- お囃子は太鼓、笛のほか「鉦」がある
- 20種以上の豊富な演目
- 「獅子殺し」はしない
- 「餅つき舞」がある
- 道具が芸術品の域
- 太鼓は屋台蔵に乗せる

夜には提灯もつきます！

祭り当日の流れ

※時間は目安。30分以上前後することがあります。

6:30	公民館集合。準備
7:00～11:30	午前の部　公民館から出発 ⛩宮参り（日枝神社）→各家を回る
	休憩
13:00~15:30	午後の部　公民館から出発 ⛩宮参り（天満宮）→各家を回る
	休憩
19:00~22:00	夜の部　最後は公民館で夜叟振舞

きはや芸術品！ 獅子舞道具

獅子頭（ししがしら）

井波の彫刻家・南部白雲氏の手による遊び心いっぱいの逸品。耳には蝶々、眉の周りには縁起の良い文字の隠し彫りが。カチカチと歯を鳴らす時の衝撃に耐えるよう、木の根を使って彫られている。強度も芸術性も最高級の獅子頭。

薙刀（なぎなた）

同じく南部白雲氏の手によるもの。クワガタが向かい合って決闘している様子が彫られている。つばの中にはパチンコ玉が入っており、揺らすと音が出る。

三番叟（さんばそう）

漆で仕上げた天狗の被り物。小刻みに体を揺らすことでパタパタと音がする。

写真提供：窪栄三さん

伝説の名人 窪賢一さん

写真提供：窪栄三さん

夜叟振舞で初めて松明を使ったのは、天狗役の名人として、今も六渡寺の人々に語り継がれている窪賢一さん。まるで天狗が乗り移ったかのように人間離れした跳躍力と類まれなる演技力で人々を魅了し続けた窪さん。60歳を超えても軽快な天狗を務め、各地の記念公演などへひっぱりだこだったそうです。

六渡寺獅子舞の簡易年表

1856年（安政3）
前田斉泰中納言昇叙に際し獅子舞で奉祝

1933年（昭和8）頃
東西の獅子舞が統一される

1937年（昭和12）
戦時中、獅子舞中止

1947年（昭和22）
春季例祭で久しぶりに獅子舞復活！

1951年（昭和26）
富山県獅子舞競演会で特等（県内一）

1972年（昭和47）
名古屋市の松坂屋百貨店に招かれる

1979年（昭和54）
庄西こども獅子舞が誕生

1992年（平成4）
第17回獅子舞大競演会に県代表として出演
第1回ジャパンエキスポ開会行事に出演

日枝神社

MAP Aあ 六渡寺

平安時代にはすでに神主が居たという歴史ある神社。屋根形の石を組み合わせた山王鳥居は、神仏混交の象徴。社宝に三体仏あり。

鹿子浦橋

MAP Aい 六渡寺

橋にある 4 つの親柱には、それぞれリアルでコミカルな獅子のブロンズ像が佇む。六渡寺エリアの入口、内川にかかる橋です。

庄西コミュニティセンター

MAP Aう 六渡寺

六渡寺の獅子頭や採り物を展示しています。祭り当日の最後に、六渡寺獅子方による見応えある夜叟振舞を堪能できる場所です。

奈呉町（なごまち）

5/15 気比住吉神社

漁師町らしい勇壮な浜獅子

古くから漁師さんが多い地域。「おべっさん」の発祥とも言われ、船の上でも毎年舞う。古き良きしきたりを大切にしている。曳山を持ちお囃子にもかなりのこだわりがあり、笛・太鼓の名手が揃う。天狗のレジェンドは、故・釣寿之さん。

定置網の船のうえでも舞う。ザ・漁師たちの獅子

古新町 東部（ふるしんまち とうぶ）

5/15 気比住吉神社

ダイナミックで息の合った動き

浜獅子らしく勇壮かつ華麗な獅子。良いYouTubeチャンネルあります。

獅子頭と同じ顔がついている薙刀は、彫刻師のレジェンド・武部豊さんの手によるもの

古新町 西部（ふるしんまち せいぶ）

5/15 気比住吉神社

テンポの早い喧嘩獅子

テンポが早く、全体的に舞が短め。三番叟も天狗の面をつけている。黒獅子の口は、開閉にバネを用いており迫力満点。ベロリと豪快に出た舌が見えるのも他町にはない特徴。

密集！凝縮！

新湊・放生津獅子舞 Lion Dance Collection コレクション

新湊歴史ヒストリアチームがほぼ 10 年の歳月をかけて集めた獅子舞のベストショットたち。各町内・団体の SNS での発信内容や YouTube で公開されている動画などを参考に、ゆる〜くポイントをまとめてみました！

角版写真提供：吉久 磨
切抜写真提供：越中祭青年会、射水商工会議所、(株) ワールドリー・デザイン

江柱（えばしら）

5/15 立町日吉社

様々なアレンジ・工夫を加えて

隣接する立町の獅子舞をならい大正10年頃から始まった。海沿いの「浜獅子」を基本に、新たな工夫・アレンジを加えて今に至る。最後の「獅子殺し」後は、お獅子が来年まで休めるようにと、完全に頭と胴体を離して保管するそう。

毎週練習している熱心さ！

北長徳寺（きたちょうとくじ）

5/第2土曜 藤ノ宮神明社

豪快な浜獅子

本当にお獅子にお酒を飲ませる！文字通り浴びるように飲む!?

倉屋敷町（くらやしきまち）

5/15 東町神明宮

珍しい赤獅子

もとは放生津城周辺の内川沿いに建ち並んでいた蔵屋敷の記憶を残す地域。

眼や歯の金色がきらびやかな赤獅子。

獅子絵田（ししえでん）

5/15 立町日吉社

町名の通り、獅子舞にかける思いの強い地域。獅子舞研究にも力を入れており、各地の祭り関係者から声がかかることも。傘と鎌を持って舞う「傘かま」は獅子絵田が発祥と言われる。自町では曳山を持たないが、紺屋町曳山に古くから曳き子として携わっている。

町名の通り獅子舞にかける人々

獅子絵田獅子方衆【公式】

※内容は 2022 年度に確認できたものです。開催日や宮参り神社、内容などが変更される場合がありますのでご注意ください。

三日曽根 横町

5/第2土曜　三日曽根神社

三日曽根横町獅子方

親子獅子あり！賑々しい獅子舞

お獅子の口をあまり開けずに舞うことが多い

三日曽根出町

5/第2土曜　三日曽根神社

曳山愛感じる華やかな獅子

三日曽根には、3つもお獅子があるよ！

キャッチーな見せ方を次々に開発

三日曽根 稲荷町

5/第2土曜　三日曽根神社

30年前の存続危機でキリコとしての女子参加を認めたのを機に、他町内からも女性を受け入れている。大廻りの際、天狗を牽制しようと、獅子方の胴幕ごとでんぐり返しをするのは稲荷町のみ。

四十物町

5/第2土曜　立町日吉社

ゆったりテンポの浜獅子太鼓が特徴

左右に良く動く獅子方。ザ・放生津のお獅子！

老若男女が携わる獅子舞

荒屋本町

5/第2土曜　荒屋神社

餅つきや米俵など、農村っぽい要素も。

荒屋東部

5/15　浜中金刀比羅宮

キリコの衣装、鮮やかな青色が印象的。

伝統を大切にしつつ次々と新たな挑戦を

老若男女が携わっており、女性の三番叟も。ひょっとこ、おかめのほか、黒ぶちメガネのキャラクターもおり、独特の演出やアイテムで魅せる、エンターテインメント性の高い演舞。

荒屋東部獅子方【公式】

「休んごと」の獅子舞

善光寺

5/第2土曜　気多神社

田植えが終わった時期の「休んごと」として、豊年満作や五穀豊穣を願う、農村系の獅子舞。海沿いの「浜獅子」とは違い「おべっさん」の演目がない。

浜獅子とは違う、田祭りとしての獅子舞！

地元の常識！ 用語解説

用語1　まく　使用例　あんたの町の獅子、まきたいんやけど…

文字にすると「舞く」。「舞う」と同義。獅子舞に参加する、獅子舞をやることを「まく」と言います。

用語2　おく　使用例　うちの獅子1回おいたけど、復活したんよ。

文字にすると「置く」。獅子舞を休眠させること。「止める」とは言わず、続ける意思が常に漂う言葉です。

地域に根ざす獅子舞

室町時代、放生津城主・神保氏ゆかりのお寺のあった、歴史ある地域。

神保寺

5/第2土曜　荒屋神社

獅子頭は黒から赤に！

※内容は2022年度に確認できたものです。開催日や宮参り神社、内容などが変更される場合がありますのでご注意ください。

中町（なかまち）

5/15

⛩ 秋葉社　⛩ 皇大神宮　⛩ 気比住吉神社

昔ながらのゆったり堂々としたテンポのお囃子が守られている。天狗の所作も昔ながらの型や足の運びを守っている、伝統の獅子舞。

ゆったりと舞う伝統の浜獅子

北海道天塩町に、中町をお手本にした獅子舞が！
古きよき伝統を伝える、漁師町らしい獅子舞。

四日曽根（よっかそね）

5/15

⛩ 四日曽根諏訪社

獅子舞ガールが見られる場所は限られているので要チェック！

ダイナミックかつしなやかに舞う

松明を使わない大廻りが特徴的。揃獅子舞ガールがおり、昼は囃子方、夜はは舞方に。ダイナミックかつしなやかに舞う。

テンポの速い勇壮な獅子舞

エリア中、最も大きな獅子頭！

女の子の天狗役も登場。戸数も多い地域

新富町（しんとみちょう）

5/15

「宮参り」はせず、お祓いのみ

平成14年創設。最も新しい獅子舞！

桜町（さくらまち）

5/15

⛩ 四日曽根諏訪社

放生津八幡宮門前町＆県内最古の獅子舞の誇り

お獅子の目が金色！

東町本町（ひがしまちほんちょう）

5/15

⛩ 東町神明宮　⛩ 放生津八幡宮　⛩ 浜中金刀比羅宮

新湊地区最古の獅子舞・新規町、天神町、倉ノ町の獅子舞も引き継いだ地区。獅子舞のときだけ出てくる町名。

二の丸本町（にまるほんちょう）

5/15

⛩ 二の丸町稲荷社

特徴的なお囃子の獅子

囃子方は「皆川社中」というお囃子のプロ集団。

胴幕や袴が、この辺では珍しい青緑色

二の丸町（にまるまち）

5/15

⛩ 二の丸町稲荷社

数年前に存続の危機に瀕し、市内外の若者に声をかけ再構成した獅子舞。

若い世代が支える！活気のある獅子舞

大廻りの演目で、こきりこ節が出てくるよ

西新町（にししんまち）

5/15

⛩ 西新町神明社

胴幕の運動量、ハンパない！

テンポよく機敏な獅子舞

地元の常識！用語解説

黒と赤、お獅子の違い

新湊・放生津では、黒と赤の獅子頭があります。黒は雄獅子、赤は雌獅子と言われています。このエリアは黒獅子が多いです。

雄（おす）　雌（めす）

平成23年に復活！いろんなところから担い手が集まっている。「薮」という演目も。

商店街・中心部の獅子舞

祭礼でお神輿も出る町内

東新町（ひがししんまち）

5/15

⛩ 東新町諏訪社

※内容は2022年度に確認できたものです。開催日や宮参り神社、内容などが変更される場合がありますのでご注意ください。

法土寺（ほうどうじ）

5/第2土曜　愛宕社

歴史ある町の勇壮華麗な舞

鎌倉から室町時代に栄えた門前町・報土寺の歴史を今に引き継ぐエリア。

お囃子は、年間スケジュールを立てて練習中

庄東（しょうとう）

5/15　白山宮

六渡寺との共通点多し。氷見系獅子

烏帽子の大天狗も。獅子と天狗の接近戦の見応え！

南長徳寺（みなみちょうとくじ）

5/15　藤ノ宮神明社

最もスピード感のあるお囃子

軒数が多いエリア。新湊高校でも舞う。

西奈呉（大奈呉）（にしなご　おおなご）

5/15　気比住吉神社

漁師による「潤建（またて）」の獅子舞

四角い顔の箱獅子は、最も古い形をしっかり継承している。天狗面もほおが張っている昔ながらの顔つきをしている。

四角い顔の箱獅子は、歴史の深さを感じさせる

※内容は 2022 年度に確認できたものです。開催日や宮参り神社、内容などが変更される場合がありますのでご注意ください。

獅子舞の祝儀（花）と目録

お祝いごとのある家では、花（祝儀）をたくさん出し、特別に長い時間をかけてお祝いの獅子舞をしてもらいます。これを「花を打つ」といいます。花には、家花、客花、嫁花・婿花などがあります。たくさんのご祝儀に対し、獅子方の代表が独特の節回しで口上を読み上げ、餅つきや紙吹雪など特別なアイテムも登場する獅子殺しが演じられます。最後はみんなで乱舞。最高潮で終演します。イヤサー！

家花　新築や新装開店などのお祝いに

客花　大切なお客様を招いたお祝いに

嫁花・婿花　お嫁さん、お婿さんを迎えたお祝いに

御礼口上の例（一例）

とざいと～ざい（東西、東西）。笛、太鼓、鳴りもの、御静まりくださりませ～。サアーテ、私のような不格好者が高座に御免こうむりまして、何が口上の真似ごとを申します。〇〇神社春季例祭悪魔祓い獅子。ご当家〇〇様に舞い込みますれば、ご当家のご主人様並びに賓客一同、〇〇の若い衆よう来てくれたとの思し召しにより御花くださ～る。
サアーテ、花の御礼に何か一言申そうなれば、一にいろはの花ずくし、二ににおいで名高いキンセン花、三に下り藤、四に獅子牡丹、五つい山の千本桜、六つ無量花、七つ南点花、八つ八重桜、九つ高名桜。まだまだ沢山あるそうでございますが、あまり下手な口上はここらで止めおきまして、目録一つ、御酒、流れ流れて庄川のごとし、御魚、富山湾にいるだけ、金子は積んで積んで〇〇銀行横付け。右はエート（栄富）、エート、〇〇様方より〇〇獅子方若連中にくださ～る。

（口上を終えると、目録紙を獅子にくわえさせて次の演目へ…。）

獅子舞のための準備・練習

町内や団体によって状況や方針は異なりますが、獅子舞の練習・準備を開始する時期は、祭りの 2 週間～1 ヶ月前が多いようです。当日までは連日、夕飯後の 19 時ごろから 1～2 時間程度集まっての練習・作業が続きます。終了時間が来たらスパッとやめ速やかに解散するところが多いようです。
また、獅子あやしのキリコや天狗たちが使う御幣や傘などの採り物の多くは消耗品のため、紙を折ったり切ったりして自分たちで装飾を制作します。
祭り前日は、祭壇に獅子頭や道具などを飾り、御神酒をお供えして安全を祈願します。

獅子のお宿

▲北長徳寺

四十物町▶

練習風景

▲奈呉町

道具の準備

▲荒屋本町

Historia 歴史解説

恵比寿舞

3カ所に祈祷木を沈め、お神酒を献じ、海川山野の供物を海に捧げた後、中央の漁場を塩で浄め、ボンボコ舞(恵比須舞)を舞って、海上安穏と大漁を祈願する。

1 海上神事は「大道式」とも言う(方言で、大道は海上の意)。御舟代に移したご神体を神輿船に乗せて海上を渡御する儀式。大漁旗で飾った 20 隻近くの漁船とともに、海上 3 カ所(東→西→中央)の漁場に向かう。2 社殿神事の後は海上神事へ。ご神体を乗せた御舟代が神社を出発！ 3 海上神事の後は氏子神事へ。氏子の家々を巡る前に漁民義人塚へも舞を奉納

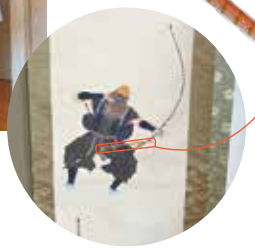
海上安全と豊漁を祈る特別なお祭り

新湊のボンボコ祭

Shinminato no Bonboko Matsuri

400 年以上前から続く、不漁や海難事故などが発生した翌年の春（4 月 19 日）にだけ行われる、西宮神社の特別な祭礼です。神事は、社殿、海上、氏子の 3 部構成。社殿神事は、神前で舞人によるボンボコ舞が奉納されます。海上神事は、ご神体の恵比須像を御舟代に移し、これを神輿船に乗せ沖へ出て、海中に祈祷札や供物を沈めて海上を清め、ボンボコ舞を奉納し、海上安全と豊漁を祈ります。海上から帰還した舞人は、漁民義人塚で舞を奉納した後、氏子を巡ります（氏子神事）。氏子の家々では、お囃子に合わせて踊る舞人に恵比須様を重ね、家の中に追い入れる動作で幸福の到来を祈ります。

西宮神社では、ボンボコ舞に関する展示も行われています（要事前連絡）。



舞の最後に小柄（小刀）で鍔を叩き、鍔鳴りの音を出して終える。

舞人の腰につける獅子の顔は目にガラスが入ってリアルな作り。

漁師さんグループ専用の獅子舞も！

澗建の獅子 *Matate no Shishi*

漁師さんの同業者組合（澗建）で持っている獅子もあります。現在も活動している澗建の獅子は「大奈呉」だけに。獅子頭は、頂部と鼻の高さがほぼ同じでデフォルメされた歯並びの箱獅子タイプ。古い歴史を受け継ぐ造形です。新湊・放生津らしい演目である「おべっさん」は澗建の獅子舞からはじまったと言われます。昔から漁師さんの多かった奈呉町には、青年団（奈呉町青年団獅子方若連中）以外に、この大奈呉（西奈呉獅子舞保存会）があります。昔はこれらに加え、白エビ漁をする小型底曳網の澗建「宮ノ丁」のお獅子もありました。

宮ノ丁（みやんちょう）の獅子舞 奈呉町・中町の海側、背戸通りの漁師たちが持つお獅子。昭和30年初に休眠。以来約70年、舞われていない。黒漆が美しい箱獅子系の獅子頭。

奈呉町自治会蔵

射水市新湊博物館蔵

上立（かんたて）の獅子舞 中町の内川沿いの漁師たちによる澗建「上立」。現存する獅子頭の形も比較的新しく、昭和後期まで舞われていた。

現在活動中の澗建のお獅子は「西奈呉獅子舞保存会」のみに。

澗建（またて）

漁師たちの漁法ごとの同業組合 現在は、定置網、底引き網、カニ籠、小型いか釣、雑網（はえ縄・刺し網・一本釣り）の、5 つのグループがあるそう。昔は「上立、宮ノ丁、大奈呉、西奈呉」の 4 澗建で「澗建のえびす様渡し」を行っていました。

漁師の生活に深く根ざす信仰の拠り処

西宮神社（にしみやじんじゃ） *Nishimiya Shrine*

MAP B え 長徳寺

越中国司・大伴家持が、749 年に、漁業の繁栄と地域の安泰を願い、出雲の美保神社を分霊・勧請して創建された奈呉浦西宮神社。漁師を守護する恵比須様を祀っており、地元の漁師さんたちが厚く信仰しています。西宮神社では、「澗建のえびす様渡し」や「新湊のボンボコ祭」といった珍しい神事が営まれているほか、毎月 20 日にはえびす講も行われています。海上はもちろんのこと、陸上においても漁師さんたちの暮らしに深く根ざす、信仰・風習の拠り処となっています。

西宮神社の鳥居は、漁に出る際、船の上からお参りできるよう、内川と海側に向けられています。

恵比寿様は家内安全の神様でもあるため、漁師さんばかりでなく一般の参拝客が多い！

- Point 1 漁師を守護する恵比須
- Point 2 海側に向いた鳥居
- Point 3 不動尊、豊玉姫、大黒様も安置

天狗役を指南した天狗

新規町の秋葉社完成のお祝いに獅子舞を出すことになり、天狗役に決まった安さん。獅子舞研究のため各地へ趣き、放生津八幡宮の松の下で雨の日も風の日も天狗の舞を練習していました。ある晩、松の木の上から「そこで飛べ！そう、棒を振り回せ！」と教えてくれる声が聞こえました。その教えを受けた安さんは大変な天狗の名人となり、加賀藩の剣術指南役が感心のあまり手合わせを願い出たのをはじめ、地域内外でも大評判になったそうです。放生津八幡宮の天狗が獅子舞の天狗役に舞を教えたという言い伝えが残っています。

家屋が密集するまちならではの民間信仰

天狗さん信仰

Worship of the Tengu

古くから、海岸に沿って発達してきた放生津の町。内川や道沿いに家々の連なる密集地は、どこかから出火するとすぐに被害が広がりました。浜風で大火になることも多く、火に対する畏れや信仰の厚い地域です。秋葉様とともに高神様の信仰も浸透しています。松の木に住み天狗の姿をしているといわれる「高神様」も、火除けの神様です。天狗は、風を操る神通力を持つとされ、人さらいや火事などを引き起こすと信じられ、古くから畏れられてきました。

気比住吉神社

Kehi Sumiyoshi Shrine

MAP B お　奈呉町

北陸道の総鎮守で日本海の海上交通の神様である「気比神（＝御食津神・足仲彦命）」と、海と航海の神様「住吉三神（＝底筒男命・中筒男命・表筒男命）」が一緒に祀られています。気比住吉神社では毎年春・秋 2 回、高神様が住むという 2 本の御神木（松）の前で「防除祭」が行われます。

長朔寺

Chosakuji Temple

MAP C く　立町

1591 年、放生津城主・山崎長鏡の娘、かめ子の菩提寺として、旧寺を再興してできたお寺。毎年 3 月 23 日には、このお寺に祀られている秋葉三尺坊を、放生津の秋葉社へとお移しし鎮火祭が行われます。さらに、地元の漁民義人らの位牌も安置されており、漁業者の大切な拠り所となっています。

放生津八幡宮

Hojozu Hachiman Shrine

MAP C さ　東町

越中の国司として赴任した大伴家持が、746 年に作らせたという神社。広い境内には本殿・拝殿以外に、来名戸社、火之宮社、祖霊社、魚取社などの社や、秋の例大祭で神々の霊の依り代となる御神木の松の木などが点在しています。境内の松の木には、新規町の獅子舞の天狗役・安さんを指南した天狗の言い伝えがあります。

専念寺

Sennenji Temple

MAP B か　三日曽根

黒松と赤松の突然変異「傘松」が圧巻の寺。普段は出入りが禁じられている「天狗の間」があり、大晦日～正月、盆、5 月の獅子舞と 10 月の曳山祭りの年 4 回、違い棚に冷酒を入れた徳利を供えます。翌日、中の酒が減っていたり水のようになっていたりするそう。ご住職によると「天狗さんは苦手な鯖の旬になるといなくなる」のだとか。

愛宕社

Atago Shrine

MAP C け　法土寺

天正年間（1572～1592）、四柳氏が屋敷内に勧請した愛宕神を、屋敷内にお祀りするのは恐れ多いとし、伏木の気多神社に一旦預けましたが、弘化2年（1845）、この場所から失火があり、法土寺・荒屋・東町など490戸が焼失する大火がおきたため、出火場所に社殿を建て、再び遷座し、防火を祈願したのが始まりです。

秋葉社

Akiba Shrine

MAP C き　中町

毎年 3月23日、中町の秋葉社では秋葉大権現祭が開催されます。祭りの際、秋葉社では鎮火札が配られます。

秋葉社

Akiba Shrine

MAP C こ　東町

最古の獅子舞があった新規町の秋葉社。2度の大火をきっかけに慶応2年（1866）創建。

これからの祭りの 続け方・残し方

その1
獅子方インタビュー

獅子舞が伝わった数百年前から時代に合わせて徐々に進化してきた獅子舞。環境や生活様式が大きく変わる中、門外不出の技術、しきたり、伝統などを大切にしつつも、少しずつ工夫し、時には大胆に変えていくことが必要なのかもしれません。その1は「獅子方インタビュー」です。課題とそれに対する模索を、特徴的な3つの獅子方にうかがいました。その2は「獅子舞好き若手対談」と題し、現在&次世代を担う獅子舞好きのお二人に、今思っていることを語っていただきました。

問題1 人手不足問題

- あらがえぬ少子・高齢化
- 町民だけでは担えない
- 複数の獅子方の合併!?
- お獅子やりたいなら誰でも歓迎!?

など

以前は子どもたちの数も多く、男子だけでも次男・三男…と大勢の兄弟がいました。以前は、概ね40歳くらいまでの未婚男性を中心にした各町内の青年団が獅子舞の担い手となっていました。現在も大半は、青年団を中心とした「若連中」が獅子舞を行っていますが、以前と比べると年齢の幅は広がり、囃子方を中心に、女性の参加を認める団体も増えてきています。昔は、暮らしの延長線上にあった祭礼ですが、今は、その町に住み続けている人も減ってきたため、獅子舞を後世に残すための「保存会」としての活動をする団体も増えました。

担い手不足で3年間休止をやむなくされたことがきっかけで30年ほど前から、女子の参加を積極的に受け入れるようになった三日曽根稲荷町。世話役によると、「続くことが大事。最初は反対意見もありましたが、町内の女の子が実際に舞う姿は可愛いもの。みんな何も言わなくなった」そう。小さい頃からお獅子を見て育ち参加したいと思いながら自町では参加できないという子も少なくないため、町外からの参加も受け入れています。稽古には市外から通ってくる人もいるそうです。

三日曽根稲荷町

桶谷さん　堀さん　西さん
三日曽根稲荷町獅子方若連中

続けるためには、何でもチャレンジ。
▶いち早く女性を起用。裾野を広げている

祭りの日には総勢80〜100名が集まってくる。実際の町民は5〜6名。ほとんどは町外に住んでいる人々。30年ほど前から積極的に女性を起用しており、舞方・囃子方は賑やか。しかし胴幕に入る人が徐々に高齢化・減少している。若い衆の自主性を大切にしつつ、続けるためにできることは何でもやる気持ちでいる。

問題2 実施日問題

- 祭礼の日が暦の上でも休みとは限らない
- 参加しやすい日に祭りの日を変更!?

など

獅子舞が始まった江戸後期は、担い手の多くが漁師や自営業の人たちばかりでした。戦後は会社勤めをする人が増えましたが、昭和前半はまだ、祭りの日に休むことを許可・容認する空気がありました。行政区や学校区などが変わり、徐々に地域の共通行事ではなくなってきたこともあり、以前に比べ祭りを理由に学校や会社を休めなくなってきました。そこで、祭りの担い手を確保するため、数十年ほど前から、5月第2土曜日を祭りの日にする町内が増えました。一方、漁師や自営業の人々が多く住む町では、仕事を含むライフサイクルの中にすでに祭りが組み込まれていることを理由に、祭礼日を変える気がないようです。しかし、近年、有給休暇取得義務化や副業解禁などの働き方改革が進み、労働や雇用のあり方が変わってきました。これらが実施日問題に新たな影響を与えるかもしれません。

奈呉町

「祭りと会社どっちが大事なんや!」▶言われた人は数しれず

町内の気比住吉神社には年十数回の祭礼があり、それぞれに時期と意義がある。漁師、自営業の多い奈呉町。所属する漁師の濃建「宮ノ丁」では、今も獅子舞の時期は3日間休み。「祭りと会社どっちが大事なんや?」と、上司に詰め寄られた勤め人は数しれないが、春季祭礼日の変更が話題に上ったことはない。

奈呉町青年団
獅子方若連中　野口さん

問題3 技術継承問題

- ベストな稽古時間は?
- お囃子の音が騒音に!?
- 忙しすぎる子どもたち
- 昔の技術の研究・継承

など

少子化により学校が統廃合され、授業や学校行事として、子どもたちに獅子舞やお囃子を伝える機会が失われつつあります。塾に習いごとに部活に忙しく、稽古に参加できない子どもたちも少なくありません。ご近所さんの安眠を妨げぬよう気遣い、時間ぴったりで稽古を止めるところも。地域ぐるみでの継承と言いながら、どの団体からも、少数の世話人が八面六臂の活躍で下支えしている様子が垣間見えます。過去の資料を研究し技術を学び直したり、祭り直前の数週間ではなく年間スケジュールを立てて稽古したり、似た獅子舞を持つ者どうし合同で練習したりと、新たな方法を取り入れる団体も現れました。
上手なお獅子・お囃子を目指すのも、楽しく残すやり方を選ぶのも、決めるのは結局その時の担い手たち。環境が変わる中で、5年、10年、数十年後と、何をつないで行けるのか、多くの団体が模索しています。

六渡寺

六渡寺獅子方保存会さん

「めっとんないお獅子まくな!」(みっともないお獅子を舞うな)
▶そのベースとなる愛着は、お獅子前の原体験から始まる

物心がつく、キリコを始める数年前から、祭りの雰囲気を味わい、お囃子の音を体に感じるという"お獅子前体験"が、子どもにとってはとても大事。体験しなければ興味も湧かず、興味がなければ上達しない。簡単でないからこそ「上手くなりたい」気持ちが何より大事。ただでさえ人数が少ない上に、コロナで丸3年やっていないので、ゼロ地点の原体験から、キリコを育てていく必要がある。

これからの祭りの 続け方・残し方

その2 獅子舞好きすぎ若手対談

久宗獅子舞工房
代表／彫刻師
高畠 久宗さん

獅子頭や天狗面を作る職人。次世代に祭りの楽しさ、大切さを伝えるべく 2017 年から YouTube を開始。富山の祭り・伝統文化を発信している。

公式 YouTube

越中祭青年会
副会長／新湊海老江支部長
五十嵐 友輔さん

幼い頃から祭りに携わり、大学時代は各地の祭りを調査・研究した筋金入りの祭り好き。現在 7 つの獅子に参加中。(30ページも参照)

———祭りに目覚めてから今の活動に至るまでを教えてください。

小学生の頃から、お面や道具を自作！

高畠 私の実家は高岡。小さい頃から獅子舞が大好きで、小学校低学年の頃、自分の作ったお面で祭りに出たいと思い、祭り道具店のチラシをお手本に、見よう見まねで天狗面や道具を作っていました。実家が建具屋で、木材やノミが調達しやすかったので。また、同じく小学生の頃から、研究のために新湊の獅子舞をビデオ撮影してきました。中学生になると地元の獅子舞がなくなってしまい、結局、天狗面を触ることも舞うこともないままになってしまいました。お面や道具を作る人になれば、祭りと関わり続けられると思い立ち、21歳の時、井波の彫刻師・大沢秀樹氏に師事。「自分の飯をなんとかするならどれだけでも教えてやる」と、初日から図案と道具を渡してくれ、根気よく指導してくれました。それ以来「久宗 獅子舞工房」として活動し、丸 10 年が経ちました。

祖父の作った祭り玩具で育つ

五十嵐 天神町で大工をしていた祖父が生粋の祭り好き。祖父作の曳山のミニチュアでよく遊んでいました。曳山が大好きでジャングルジムは提灯山だと思っていましたね。一方、獅子舞はちょっと面倒な印象もあり、参加するようになったのは遅めで、小学校4 年の頃。渋々参加するうちだんだん楽しくなり、中学校で仲間が増えてさらに好きになって、そこからは獅子舞にも夢中に。とにかく祭りが大好きなので、自分がやるだけではなく誰よりも知識をつけて地元の祭りを「いいが」にしたい、次世代に継承したいと思い、大学の卒論も祭りを題材にしました。新湊の祭りを始め県内外の実際に祭りに関わる人たちの生の声を丹念に研究・調査し、最優秀卒論賞もいただきました。

———おふたりとも、筋金入りの祭り好きですね。研究熱心なのも共通点です。今の活動をする中での思いや課題を教えてください。

獅子舞道具を修理できる職人が減っている

高畠 彫刻師の世界は腕の良し悪しが収入に大きく影響するため、よほど好きじゃないと続きません。私は獅子舞の道具を見るのも触れるのも作るのもとにかく大好きなので、道具の直しが来るだけで大興奮です。獅子舞彫刻のレジェンド・武部豊さんのつくられた名品が今手元にあるのですが、それを直せることに大変な充実感を覚えます。県内外から依頼もあり、獅子舞で各地の人々とつながれるのが嬉しいです。一方で、修理・新調の際に必要な技術を持つ職人はどんどん少なくなっています。私より年下で獅子頭を専門に作る人はいません。漆職人の後を継ぐ人も少なくなり、最近では吹きつけ塗装で仕上げる獅子頭も出てきているほどです。

一つでも多くの獅子舞を存続するために

五十嵐 大学生の頃、私の町内・二の丸町の獅子舞が存続の危機に瀕しました。「一度おいて（止めて）しまったらもう二度とできんかもしれん。ほかの町内がまく(舞う)のを見たら絶対羨ましくなってしまう」と、何とか続けるために、同級生や仲間たちに頼み込み、いろんな人たちに声をかけ、青年団でも保存会でもないやり方で続けさせてもらっています。

この経験から、「越中祭青年会（30 ページも参照）」が呼びかけて、放生津校区周辺の獅子舞団体連絡会を作りました。獅子舞のない地域でも祭りが好きで憧れる子どもや若者は多いため、オープンにして中に入りやすくすることで、祭りに興味を持ち、携わるきっかけを作り、裾野を広げる活動を行っています。実際に日程の違う祭りの担い手支援や存続のためのノウハウ共有などにもつながっています。

高畠 6 年前から YouTube を始めました。小学生の頃から好きが高じて、音や動きを残したい、次の担い手につなげたいと動画を撮っていますが、全国の獅子舞ファンとつながれるのが嬉しいですね。保育士実習時に考案し大好評だった、牛乳パックで作る獅子頭の動画も公開しています。

また、子どもたちに、獅子舞を楽しみ、好きになってもらう機会になればと「弥栄」という団体の設立準備を進めています。とにかく、まず見てもらわないことには伝えられません。気軽に見てもらって獅子舞への入口を広くしたいと思っています。知らない町内の練習を見にいくと「あの人誰？」っていう雰囲気になるじゃないですか。交流する機会を作って、少しでも顔見知りが増えれば、普通に「見ていいよ」って声をかけられる。そんなきっかけを作っていきたい。

練習風景も花打ちも、もっと見てもらいたい

五十嵐 そうそう、練習風景を見たい人って結構いますよね。私たちも今年、各町内の練習風景を見られるツアーを予定しています。町内によって違うお囃子や動きが、ずっとちゃんと継承されていることはすごいこと。新湊の獅子舞は周囲から高く評価されており、町ごとに踊りが音の違う「越中八尾おわら風の盆」に勝るとも劣りません。にもかかわらず、見方や参加のしかたがわからない人がまだまだ多い。様々な角度から魅力をたくさん知ってもらうことで、担い手確保や技術継承にもきっとつながるはずです。

———密集しているがゆえに一度にいくつもの獅子舞に出会えますが、花うちなどは多くの町内で時間が重なるので、1 つか 2 つしか見れませんよね。

五十嵐 そうなんです。各町の花打ちは結局個人情報。至る所でやっているのに時間や場所を公に紹介しづらい。「あそこに行ったら必ずどこかのお獅子が見れる」という場所があるといいですね。願わくば祭り当日に。獅子舞の懐事情は各家からの祝儀頼みですから、企業協賛を集めやすい競演会の開催は、獅子舞を見たい観客、PR・応援したい企業、見てもらいたい獅子方、賑わいを創出したい地域と、四方よしです。各町が影響しあい進化してきた新湊の獅子舞のように、祭礼としての芯は守りつつ、見せ方はしなやかに変えていくということが大切だと思います。

歴史ヒストリアチーム、とっておき！

もっとお獅子を楽しむ方法

1 独自の演出&キャラを楽しめ！

同じ名前の演目であっても、団体ごとに出演キャラクターや演出方法などが異なります。特に、長い時間舞う花打ちでは、いつもと違う特別な演出を見ることができます。即興で取り入れた動きやアイテムが好評を博せば、翌年からはその町の定番に。より見応えのある舞を求め、各団体で独自の探求が続けられています。

2 お囃子の違いを聴きわける!!

獅子舞、曳山と祭りに欠かせないお囃子は、町ならではのリズムと音程で人々の体に染み付いているものです。特に笛は、若い頃から練習を重ねても名人と呼ばれるのは一握りという奥深い世界。六渡寺のお囃子は華やかでテンポ速く、古い漁師町は雄大でたっぷりとした拍子。全体の傾向として年々テンポが速くなっているそうです。

3 レジェンドの存在を感じろ!!

各町・団体ごとに、ほぼ必ず、語り継がれている名人や功労者がいます。中には地域内外にその名を轟かせた伝説的人物も。人間離れした技で人々を魅了し続けた天狗役、新たな技を発明した獅子方、驚くべき技巧の囃子方、休眠していた獅子舞を復活させた世話役など、祭りにかける様々な英雄たちが獅子舞をつないでいるのです。

さらに深く楽しむために…

祭り好きの若衆に聞こう

富山の祭りに新たな力を。

越中祭青年会

今ある祭りがひとつでも多く残って欲しい。

中学校の統廃合で途中から同級生になった奴らとの初めての会話は「どの山、出とる？」だった。祭りは仲良くなるための入口なんです！

変わりながら続いてきた祭り。時代に合わせて変えながら残して行きたい。

コロナ禍で様々な伝統行事が相次いで中止・延期となった令和２年に「越中祭青年会」が発足。衰退しつつある県内の祭り文化・行事に対し、今できることを考え、行動する若き祭り好き達の団体です。情報交換や広報活動を通じ、担い手の地域間共有や時代に合わせた稽古方法・伝え方などを研究・実践。五十嵐さんは、幼い頃から祭りに携わり、大学時代には県内各地の祭りを調査・研究した筋金入りの祭り好き。祭りの今と過去を横断する、若き市井の郷土史家としても目が離せません！

越中祭青年会公式HP

越中祭青年会
副会長／新湊海老江支部長
五十嵐 友輔さん

新湊歴史ヒストリアチーム

リーダーの一枚

富山県は獅子舞が日本一伝承されている「獅子舞王国」。中でも新湊地区旧市街地は、今なお数多くの獅子舞が盛んに行なわれている獅子舞密集地です。祭り当日には、あちらこちらから祭り囃子と威勢のいい掛け声が響きわたり、町は祭り一色になります。そんな町にピッタリな万葉線の車両が令和２年に登場しました。車体は胴幕をイメージし、前面には獅子頭、側面には獅子取りの天狗やキリコが描かれています。万葉線の沿線では獅子舞が盛ん。祭り当日は、獅子舞電車に乗って見に来るのも楽しいですね。

しんみなと歴史ヒストリア
プロジェクトリーダー
吉久 磨

「いいもの見せてもらった」

これが最近の獅子舞を見た時の感想です。新湊に生まれたなら祭り好き、それが獅子舞や曳山がある町ならなおの事、かくいう私も曳山のある町に生まれ祭りが大好きです。しかし獅子舞がない町だったせいか獅子舞は曳山ほどの魅力を感じていませんでした。

それが歳を重ねるごとに獅子舞の魅力や奥深さを感じるようになりました。それは、各町内が趣向を凝らし努力を積み重ね、私達に素晴らしい獅子舞を見せてくれているからだと思います。昔からの伝統を守り続けている町、良いところを取り入れて進化させている町、見せる獅子舞を極めている町など取り組みも様々です。

さて、今年はどこの町内の獅子舞を見に行こうか今から楽しみです。皆さんも是非獅子舞を見に来てください。

きっといいもの見れると思いますよ。

動物みたいな獅子頭、箱みたいな獅子頭

内川周辺では、動物をモデルとした獅子頭に交じって、長細い四角形の獅子頭も見られます。これは箱獅子と呼ばれ、芝居の要素を含む現在の獅子舞が生まれる前に誕生し、神社寺院の行事で使われた形です。他地域であまり見られないため、この地の獅子舞の歴史の古さを証明してくれます。

協力
松山 充宏

射水市 新湊博物館 定休日 火曜、祝日の翌日
所在地 射水市鏡宮299 TEL 0766-83-0800
開館時間 9:00～17:00（入館～16:30）

愛されている獅子舞

事務局
見﨑 華子、千石 和佳奈

幼いころから親に連れられ見に行き、その豪快さやしなやかさに、畏怖の念と憧れが入り混じった気持ちで見ていたのを思い出します。大人になった今も強く惹きつけられ、小道具はどう調達しているのか、どんな意味があるのか、いわれは何か…湧いてきた多くの疑問に、この冊子が答えてくれます。

一方で、多くの伝統文化と同様に、獅子舞も存続には様々な課題を抱えています。取材を通じて、今は変化の過渡期にあると感じました。それぞれの町内で実情に合った方法を模索していて、なんとか残したいという地域の方々の強い思いがひしひしと伝わってきました。

皆に愛される獅子舞が、今後も残りますように、願ってやみません。

あとがき　普段は見えないものが、まち全体を陶酔へと導く

新湊・放生津の獅子舞を初めて見たのは約 10 年前。ずいぶんと大人になってから、こんな高揚感や享楽を味わうことになろうとは。「え!?こんなに火を振り回すのアリなんだ」と微かな不安を感じつつも、目の前の動きと音、ドラマチックな展開の虜になりました。普段使っていない細胞が一気に活性化し、恍惚感に包まれ、日頃の常識や悩みもどこかに消えちゃいました。そうか。積み重なったしがらみから解放されることが「悪魔祓い」なのだ、と勝手に納得。また、普段何気なく行き交っている人が舞や楽器の名手だったり、シャイで素気ない若者が情熱的な表現を炸裂させていたり…。いつもは隠されているエネルギーや魅力が立ち現れてくるのがとっても愉快でした。

獅子舞が始まった昔とは比べ物にならないほど便利で快適な生活を手に入れた私たち。神様の存在や季節の変化を気にする機会は圧倒的に少なくなり、活動存続の課題も山積していますが、今もこうして神様につながる行事で熱狂・陶酔できる人々が集うまちであるということを、驚くとともに愛おしく感じます。

デザイン・編集：明石あおい